

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- | |
|---|
| <p>1 未来を見つめながら地域や社会とつながる開かれた学校
→<u>たのしく</u> 本物に、地域等に、時代の動向に接する教育活動を展開する学校</p> <p>2 個を大切にし、児童・生徒一人ひとりの自己実現をめざす学校
→<u>ゆたかに</u> 小学部から継続的系統的にキャリア教育を行い、個別の教育支援計画を充実させて児童・生徒の社会的自立を支援する学校</p> <p>3 豊かな学校力を備え、信頼される安全で安心な学校
→<u>げんきよく</u> 人権尊重のもと、児童・生徒が明るく元気に教育活動を行うことができる安全・安心な学校</p> |
|---|

2 中期的目標

- | |
|---|
| <p>1 <<たのしく>> 支援学校における教育力の向上、センター的機能の発揮と組織としての専門性の向上
(1) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用を充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を促進する。
(2) 障がいのある児童生徒の特性と到達度を踏まえた指導内容・方法を検証し、ICT を効果的に活用した授業を実践する。
(3) 地域支援を充実させ、地域の支援教育力の向上に資するとともに校内の支援教育力のさらなる向上。
(4) 教職員の組織的・継続的な育成のため、校内研修や外部研修を活用して初任者や経験が少ない教職員、及びミドルリーダーの育成を行う。</p> <p>2 <<ゆたかに>> 自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実
(1) 全(小中高)学部において、キャリアマップに基づいた実践をし、キャリア発達段階の領域を意識して実施する。
(2) 教員の就労支援に関する実践力を強化し、早期からの企業や事業所等の見学、実習を実施し、進路先の拡大をはかる。
(3) 障がい者スポーツ、文化芸術活動の推進。
*教員向けの学校教育自己診断の「進路」に関する項目を毎年3%向上させ、令和5年度には肯定的評価を80%以上を維持する。
(H30:74% R1:76%、R2:77%、)</p> <p>3 <<げんきよく>> 人権尊重のもと、安全・安心な学校づくりの推進
(1) 一人ひとりの人権を尊重し、障がい特性やアレルギー等に配慮した安全・安心な学校づくりを推進する。
(2) 危機管理マニュアルを活用し、実証型訓練を取り入れ地域やPTA と連携しながら防災訓練を実施する。
(3) 機動力がある学校運営により、働き方改革を実行する。</p> |
|---|

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和3年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R2年度値】 学校教育自己診断 ^{児生} ：児童生徒向け ^保 ：保護者向け ^教 ：教員向け	自己評価
<p>《1たのこ》 支援学校における教育力の向上、センター的機能の発揮 組織としての専門性の向上</p>	<p>(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の促進。</p> <p>ア. 個別の指導計画は、目標と指導と評価の一体化を図る。</p> <p>(2) 障がい特性に応じた指導内容・方法の構築。 ア. 授業改善及び質の向上。 イ. GIGA スクール構想に伴いICTを活用した授業。 ウ. 情報リテラシーの育成。</p> <p>(3) 地域及び校内の支援特別支援教育力向上。 ア. 地域支援の充実。 イ. 特別支援教育力の向上。</p>	<p>ア. 観点別評価により多面的に児童生徒を評価し、教科の専門性を反映する。</p> <p>(2) ア. 研究授業実施。 中学部 50 分授業開始。 イ. ①一斉学習②個別学習③協働学習を組み合わせて効果的な授業づくりを行う。 ウ. 生徒、保護者に対して外部講師を招いて研修を実施。</p> <p>(3) ア. コーディネーター、リーディングスタッフの訪問・来校相談を増やす。 イ. 福祉・医療人材等の専門職を活用し、学部を越えてケース会議を開催して指導の方策を増やす。 ウ. 欠席が続く児童生徒の支援について関係機関とも連携し組織的に対応する。</p>	<p>(1) ア. 保護者への提示前に 管理職が確認する。 ・^教「個別の教育支援計画、個別の指導計画」に関する項目 80%維持。【83%】</p> <p>(2) ア. 研究授業 10 回実施。【11 回】 イ. ICT を活用した授業を行う教員 75%以上。【77%】 ①②③について授業観察や自己申告書で把握する。 ・^教「授業」に関する項目 90%維持。【93%】 ウ. 校内研修、公開講座、実践報告会実施。参加者アンケートで確認。</p> <p>(3) ア. 訪問・来校相談回数 60 回。【52 回】 イ・年度内課題を 80%以上解決。専門職のアドバイスを学部会で共有して、指導に役立てる。学部会記録で、確認する。 ウ. 児童生徒の状況と支援の確認。</p>	
<p>《2めたかに》 自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 全学部において、キャリアマップに基づいたキャリア教育を実践する。 ア. 自己肯定感を有する児童・生徒の育成。 イ. 進路学習を意識させる実践。 ウ. 全学部において、教員が高等部卒業後の進路先である事業所や企業について学ぶ機会をつくる。</p> <p>(2) 高等部の社会的自立に向けた選択科目の充実。</p> <p>(3) 障がい者スポーツ、文化芸術活動の推進</p>	<p>ア. 児童・生徒が、自分の得意不得意を知り、得意を伸ばす取り組みを行う。 イ. キャリア発達段階の領域を意識して指導する。 ウ. 進路部が夏季休業を利用して、全校の教員向けに事業所や特例子会社等の見学会を実施する。</p> <p>(2) R2年度から設定した選択科目の内容を充実させる。</p> <p>(3) スポーツの課外活動に加えて文化芸術活動も継続。校外のスポーツ活動と文化芸術活動にも積極的に参加する。</p>	<p>(1) ア. 学期ごとの総合所見で管理職が確認。 イ. キャリアパスポートの記入内容を管理職が確認する。 ・^{児生}「進路」に関する項目 50%【47%】 ウ. 参加者数は全体の 80%目標。</p> <p>(2) 生徒にアンケートを実施するとともに、担当者が生徒の達成度を評価する。</p> <p>(3) 課外活動を毎月開催し、定着を図る。コンクール出品、校外の大会、発表会に参加。</p>	
<p>《3げんきよく》 人権尊重のもと、安全・安心な学校づくりの推進</p>	<p>(1) 人権尊重のもと、障がい特性やアレルギーに配慮して児童・生徒が安全・安心に教育活動を行うことができる。</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染症の対応</p> <p>(3) 危機管理マニュアルを活用し、実証型訓練を取り入れ地域や PTA と連携しながら防災訓練を実施する。</p> <p>(4) 機動力がある学校運営により、働き方改革を実行する。</p>	<p>ア. 人権研修を実施して不適切な指導がないように取り組む。 イ. アレルギーなしの「みんなの給食」を中心に実施する。</p> <p>(2) ア. 健康観察と事務室を含めた迅速な情報共有。 イ. 個別の支援によりマスク着用率向上</p> <p>(3) ア. マニュアルに基づき訓練を実施して、課題を見つけてマニュアルを更新する。 イ. PTA や地域と連携した防災の取り組みを実施。 ウ. すぐメール加入率 95 パーセント以上を維持する。</p> <p>(4) ア. 首席、部主事、分掌長、学年主任を軸とした情報共有の迅速化と徹底 イ. 風通しのよい職場づくり ウ. メールを活用した情報共有の推進</p>	<p>ア. ^保「障がい理解」に関する項目 90%以上維持。【91%】 イ. 年間 90%以上アレルギーなしの献立を立てる。【90%】</p> <p>(2) ア. 朝の打ち合わせで管理職、首席、部主事、事務長で毎日確認する。 イ. 未着用者に対する個別の支援により未着用率 10%以下。【6%】</p> <p>(3) ア. 児童生徒訓練と教職員訓練を通じて見直しをする。 イ. 地域、PTA と連携した訓練を 2 回実施。【12 月、1 月実施】 ウ. 加入率 95%【98%】 ・^教「防災」に関する項目 85%維持。【86%】</p> <p>(4) ア. 部主事・首席会を活用して学部間の情報共有と部会記録の管理職への回覧。 イ. ストレスチェックの指標 110【112】 ウ. 促しなしでの開封率 80%以上。</p>	